

## 延世大学校スプリングセミナー参加報告書

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期2年 竹田 響

本学が毎年実施している「スプリングセミナー」の存在は、入学した当初から知っていたが、実際に参加するのは今回が初めてであった。コロナ禍の影響もあり、実際に渡航することが叶わなかったことはとても残念であったが、一方で、渡航することが物理的にできない状態であっても、オンラインでも現地の大学の授業を受けることができることは魅力的であり、参加を決意した。

私の場合は、他の参加者とは少し状況が異なる。というのも、本学の交換留学制度を用いて、次年度に韓国のソウル大学校に留学することが既に確定している状態であり、そのために更に語学力を磨く必要性に迫られていた、という背景があったからである。よって、本プログラムに参加したことで交換留学を考え始めたのではなく、交換留学に参加することが決まっていたために、本プログラムに参加した、という経緯であった。

今回の2週間は、私にとって非常に有意義なものとなった。私自身はこれまで韓国語を体系的に学んだことはほぼ無く、会話の中から独学に近い形で学び取ってきた。それ故、聞き取りはできても発話すること、ならびに記述することに強い苦手意識を抱いていた。今回のスプリングセミナーは、私にその弱点と向き合うきっかけを与えてくれた。無論、2週間という短期間で苦手な発話・記述が克服できたわけでは全くない。しかし、授業を受ける中で、またクラスメイトや先生との会話を行う中で、どこが問題で、何を解消しなければならないのかを把握することができた。

プログラムは、延世大学校韓国語学堂の正規課程クラスに、最初の2週間だけ一緒に混ぜてもらおうという形態で実施された。私は3級のクラスに配置されたが、受講生の内の約半数は、下級課程から進級した方であった。毎日50分授業が4コマ実施され、最初の2コマは文法と語彙、後半の2コマは聞き取りと筆記が行われた。中級課程に配置されたものの、一方で初級の文法がしっかりと習得できていなかったために、表現を上手く用いることができず、初級に立ち戻って勉強せざるを得なかった。

今回のプログラムは私の韓国語学習の始まりに過ぎないが、本プログラムを受講できたことを貴重かつ良い機会ととらえ、今後も学習に努める。そして、秋から予定しているソウル大学校への交換留学にできる限り高めた語学力で臨むべく、準備に励んでいく所存である。最後に、実際に渡航が叶わないという難しい条件下の中、本プログラムの受講に際し準備をして下さった本学関係者、ならびにご支援くださっている皆様に深く御礼を申し上げます。ありがとうございました。この貴重な機会を無駄にしない様に、今後も学習に励んでいきます。